



# alaクルーズ

広報第3号

平成15年3月29日

## 「この1年、来年度に向かって」

可児市文化創造センター館長 桑谷哲男

いつも何かを創り出そうとする時、私は心の中で空想的な森を描きます。文化創造センターの夢の実現を森と木で例えて語るなら、森を作ることは目的で、木を植えることは手段でしかありません。勿論、その1年毎の成長は楽しみなものです。そんなことを繰り返すうちに、時間<木>という概念は化学変化を起こし、永遠の夢<森>として姿を現します。様々な人と夢という記憶を共有して仕事をしたいと思うのです。

alaクルーズと共に作業してきたことは、とても価値のあることですし、お互いに信頼のできるものだと思います。ただ、同じ夢の中で良い関係を持って時を過ごしたとしても、いつの間にか時間が経過する中で、違う記憶を持つ関係が生まれます。それは、どんなに親しい間柄でも起こりうる話です。時間という概念だけではその亀裂は解決しません。その違う夢を認めたり評価したり、或いは小さな誤解を持つ中で、私たちが出来ることは、夢の中にそのすべてをゆだねることです。

今は短い時間での結果を求めず、見果てぬ夢の中にいつか見ることの出来る夢であっても良いのではないかと思います。そのことが遠回りでも、森の中に道を見つける近道だといつも思うのです。



## この1年、来年度に向かって

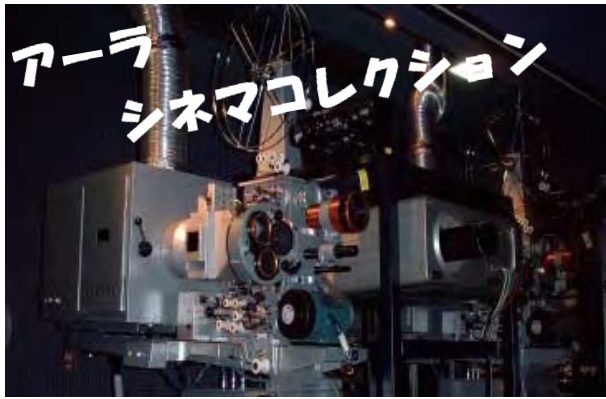
alaクルーズ会長 澤野親司

長年市民の夢でしたアーラも昨年7月に開館し、私たちalaクルーズの実践活動のステージの幕が開きました。アーラ建設は、可児市にとってこれまでにない最大の事業であり、この開館事業に参加し協力できたことは、非常にタイムリーであると共に、会員それぞれにとって、いつまでも心に残る出来事でした。

早いもので、開館以来すでに8ヶ月が経ち、その間試行錯誤しながらではありますが、それなりに組織や活動も整いつつあり、少しずつ進み始めた気がします。恐らく会員の皆さんの中には、「こんなに大変なこととは思わなかった」とか「こんな筈じゃなかった」など、実践活動の大変さ、組織としての進めかたの難しさ、年間を通してどれだけ活動ができるかなど、感じさせられたことは率直な気持ちだと思います。また、市民の皆さんや、各方面の人たちから、如何にアーラが関心を持たれ、注目されていることを知らされ、私たちの責任の重さを実感させられたことも事実です。

この数ヶ月の活動を通して、当然のことながら、予想通りに行えたことより、今後の問題として顕れてきたことが多くありました。その中でも、早急に解決しなければならない重要な課題として、一部の人たちへの負担が大きく掛かることであり、このことは、おかげさでなくalaクルーズの運営を、左右しかねないものだと思います。

次年度は、今年度の課題や問題点を謙虚に受け止め、改善策を講じながら、着実に一歩ずつ前進できる、体制と組織づくりを考え、「alaクルーズ」の基本理念の「姿(形)」を目指すと共に、何をすべきか？何が出来るか？など、模索が続きまだまだ大変だと思いますが、役員最終年度として、次期にスムーズなバトンタッチができる体制創りも責務であると考えます。



## 予想を超える反響にスタッフびっくり

### ～ 第一回シネ・コレ～

1月26日(日) G階映像シアターに於いて、はじめてのアーラ シネマ・コレクションが開催されました。第一回の今回は、1950年代に上映された洋画3本立てを、しかも無料で観ることが出来るということで、上映開始時間までには満席となり、急遽予備のイスを出して対応したほどでした。観客の多くは60代以上の男女を中心に、やはり青春時代に観てすっかり洋画ファンになった人達ばかりでした。

### シネコレ企画を終えて...

”お客さんが、少なかったらどうしよう・・・”との、前日までの不安をよそに観客数は延べ353人!! 立ち見客がでる大盛況でした。しかし、準備不足がたり、多くのお客さんにご迷惑をかけたことなど、反省の多い一日でもありました。

この反省を次回に生かし、今後も多くのお客さんに来ていただけるよう実行委員が一致団結し、頑張りたいと思っています。

( M . S )



### 来場者数

禁じられた遊び	1 2 7 人
第三の男	1 3 3 人
終着駅	9 3 人



### 来場者の声

「広報かに」で知り絶対に観ると決めていた。3本とも楽しみにしている。こういった行事は続けてやって欲しい。若い頃観た作品ばかりで懐かしい。(土田の男性)

以前アーラに来た時チラシを見て今日の事を知りました。大の洋画ファンで若い頃の思い出がいっぱいある。特に「禁じられた遊び」のテーマ音楽がとっても懐かしい。無料で観れるなんて勿体無い。有料でもいいから続けて欲しい。(桜ヶ丘の女性)

「広報かに」で知り友達と来た。3本とも好きです。これからも時々企画して欲しい。観たい作品がいっぱいあります。(長坂の女性)

「広報かに」で知りました。もう席が無いかと急いで来て座る事が出来ました。一人で楽しむ方がいいから一人できました。50年前の10代の青春時代を思い出してとっても懐かしいです。ただで観せて貰って悪いようです。(中恵土の女性)



照明ワークショップ

## 光と音のハーモニー

去る2月8日(土)ala小劇場にて、alaアーツスクール照明ワークショップ「光と音のハーモニー」が開催されました。この企画は、舞台照明の経験のある参加者を募集、コンサートの照明プランを実際に作ってもらい表現として伝えることを体験、最終的にはコンサートを開催、アンケートモニターとして観客に入ってもらい照明の感想を聞こうというものでした。講師は財団の下村秀昭さんを中心とした照明スタッフ、alaクルーズは協力という形でモニター募集のチラシ、入場整理券、コンサートプログラムの作成等を行いました。

ワークショップ参加者は六名、その内の高校生三名が照明のデザインを担当。地元で活躍するヴァイオリン高橋卓也さん、ピアノ篠田敦子さんの協力を得て曲の教材を準備、参加者は約一ヶ月をかけ課題に挑戦しました。

コンサートは、123名のモニターの方に来て頂き四季をイメージした照明を中心に全12曲が演奏されました。モニターの方からは、照明と音楽のワークショップは面白い試みだった等の声が多く聞かれました。コンサート終了後、

参加者、演奏者、スタッフによる交流会を開催、和やかな雰囲気の中、率直な感想、意見を交わすことが出来ました。参加者にはとても貴重な経験となるワークショップだったことでしょう。これからも市民の興味を引く企画を立て実施していきたいと思えます。(N.Y)



### 取材記～照明ワークショップ

ワークショップ参加者は、高校演劇部の学生3名。彼らは一度も聞いたことのないクラシック音楽を自分なりに解釈し、イメージを膨らませて照明をプログラムするという、難しい課題に挑戦しました。本番では、照明で演出された空間の中にピアノとバイオリンの音が流れ、会場全体が幻想的な雰囲気になりました。

ワークショップ終了後行われた交流会では、ピアニストの篠田さんから「観客の視線が、自分ではなく照明の方に向いている。いつもとは違う不思議な感覚でしたが、演出者の熱意が伝わってきました」と、感想が聞かれました。

参加者のうち高校3年生の2人は、照明の専門学校、芸術短大と進路も決まっており、今後も照明を勉強していくとのこと。若い2人の夢を追う真剣な眼差しと、さわやかな笑顔が印象的でした。

# 可見市文化創造センター

からのお知らせ



4・18 金

◆主劇場(宇宙のホール)

18:30開演

■全席指定 ¥5250(前売)  
¥5500(当日)

※未就学児のご入場はご遠慮ください。  
※当センターインフォメーションでのみ販売いたします。

20th anniversary

杉山清貴 ACOUSTIC LIVE 2003

■爽やかな季節にピッタリ。数多くのヒット曲をもつ杉山清貴のアコースティック・ライブです。オープニング・アクトには地元出身の若手バンド ever\*green が登場。



5・24 土

◆小劇場(虹のホール)

18:30開演

■全席指定 ¥3000  
(2F左右バルコニー席¥1500)

※未就学児のご入場はご遠慮ください。  
※チケットぴあでもお求めいただけます。  
TEL052-320-9999

## 上々颱風シアターLIVE

■お囃子のリズムで日頃の鬱憤を吹き飛ばせ！アジアを中心に世界各国のサウンドを取り入れた独自のサウンドと、ユニークな場でのライブは高く評価されています。スタジオ・ジブリの映画「平成狸合戦ぽんぽこ」の音楽でもお馴染みです。

## 子どもの劇場2003

大切なのは、子どもたちの未来…  
子どもの劇場2003

■ご家族そろって楽しめる「子どもの劇場」2003。  
音楽劇、人形劇、そして海外の演劇と多彩なラインナップをお届けします。



### 『月猫えほん音楽会』

5・3 土 15:00開演

■全席自由  
子ども券(高校生以下) ¥500  
おとなと子どもセット券 2枚¥2500  
3枚¥3000

※大人のためのチケットは販売致しません  
※3枚券は大人2枚・子ども1枚の組合せです

■近年、魅力が見直されている「絵本の読み聞かせ」。その時間は親子にとって楽しく豊かなものです。この公演は絵本とジャズピアノの即興演奏による、親子で楽しめるセッションライブです。開場前には、希望者に「猫になる」フェイス・ペインティングのサービスもあり！！

さあ、君も「猫になって」音楽会へ出かけよう！



### 『美女と野獣』

6・15 日 15:00開演

6・16 月 18:30開演

■全席自由  
おとな ¥3000  
子ども ¥1000

※子どもは4才以上18才以下

■南イタリア・バリを本拠地に、幅広い演劇活動を行っている劇団テアトル・キズメット。世界各国で称賛を浴び、本国イタリアでも、2002年に子供向け演劇のベスト・ワン！(Lo stregagatto賞)に選ばれたこの作品は、観たあとに親子で一緒に語りあえるテーマや問題がたくさん盛り込まれています。



### 『はりねずみのハンス』

7・26 土 14:00開演

7・27 日 14:00開演

■全席自由  
おとな ¥3000  
子ども ¥1000

※子どもは4才以上18才以下

■東京都無形文化財にも指定され、江戸時代の旗揚げ以来、368年の歴史を持つ伝統ある糸あやつり人形劇団結城座と、テレビや映画、舞台でも活躍中の女優・宝生舞が共演。グリム童話を題材にし、第1回かながわ戯曲賞最優秀賞を受賞した本作品は、“はりねずみのハンス”の冒険物語です。

◆会場は全公演 可見市文化創造センター小劇場(虹のホール)※4才未満のお子様のご入場はご遠慮ください

※「子どもの劇場2003」公演のチケットは、インフォメーションでのみ販売いたします。

■主催: 可見市文化芸術振興財団

# アール★5

4・13 (日)

4・14 (月)

【会場】可児市文化創造センター  
映像シアター

【開場】12:30より

- 「ふたりの人魚」13:00～
- 「三月のライオン」15:00～

【料金】全席自由<入替あり>  
¥500(1本につき)

## 『ふたりの人魚』(2000年/中国・ドイツ・日本)83min. カラー作品

【監督・脚本】ロウ・イエ

上海に住んでる“僕”の仕事はビデオの撮影。ある日仕事にでかけたバーで“僕”は水槽の中で泳ぐ美しい人魚にひとめぼれしてしまう。彼女の名は“メイメイ”。つきあいはじめた“僕”と“メイメイ”。でも彼女には不思議な行動が多く、彼女のことを自分の恋人だと言いはる男まで現れた。そして“メイメイ”は「愛しているなら私を見つけて」と言い残し、“僕”のフレームから姿を消した…。

上海を流れる蘇州河を舞台に、中国の新鋭ロウ・イエの描く恋人たちのせつない物語。アップ・リンクとドイツ、フランス、オランダが資金を提供し共同制作されたチャイニーズ・インディペンデント・フィルム。ロッテルダム映画祭をはじめ各映画祭で絶賛され、TOKYO FILMeX2000のグランプリも受賞した。中国では映画製作が政府の許可制によって行なわれているため、この作品のように、より自由な表現を求め海外で製作資金を調達し、検閲を通さない映画が多く製作されている。

## 『三月のライオン』(1991年/日本)118min. カラー作品

【監督】矢崎仁司 【脚本】宮崎裕史・小野幸生・矢崎仁司

兄と妹がいた。妹は兄を愛していた。兄の恋人になりたいと願っていた。そしてある日、兄が記憶を失った…。妹は自分を恋人だと偽り、病院から兄を連れ出して一緒に暮らし始める。兄は恋人を愛した…。恋人の名前はアイス。氷の季節と花の季節、その間に三月がある。三月はあらしの季節…。

本作は公開時から、特に10代の若者たちの熱狂的な支持を集め、リピーターが続出、追加上映も行われた。この愛のドラマは時代を越えた傑作として今日でも高く評価されている。

## VOL. 6 クラシック名作 編

# アール★6

【アール所蔵DVD上映】

4・27 (日)

4・28 (月)

【会場】可児市文化創造センター  
映像シアター

【開場】12:30より

- 「戦艦ポチョムキン」13:00～
- 「郵便配達は二度ベルを鳴らす」15:00～

【料金】全席自由<入替なし>  
無料

## 『戦艦ポチョムキン』(1925年/ソ連)74min. モノクロ作品

【監督・脚本】セルゲイ・エイゼンシュテイン

1905年、ロシアでは民衆が皇帝専制に対する不満をつのらせていた。そのころ、黒海沿岸のオデッサ沖に碇泊中の戦艦ポチョムキンでは、水兵のワクリンチュクとマチュシェンコが密かに反乱の機会をうかがっていた。水兵たちが腐った肉入りのスープを飲むのを拒むと、艦長が残酷な処刑を行おうとしたため、兵士たちの不満が爆発、かれらは反旗を翻す。やがて、「一人は皆のために、皆は一人のために」のスローガンのもとに、ポチョムキンの水兵の情熱とオデッサの労働者の怒りは一つになる。だが、ポチョムキンに声援を送ろうと港へ通じる階段を下りていた市民への一斉射撃が始まり、周りは一瞬のうちに凄惨な地獄と化す。この惨劇を目撃したポチョムキン号は、報復として軍司令部を砲撃。そして、黒海艦隊12隻の攻撃を受けることが必至となったポチョムキン号は、決意を固め錨を上げる…。

## 『郵便配達は二度ベルを鳴らす』(1942年/イタリア)118min. モノクロ作品

【監督・脚本】ルキノ・ヴィスコンティ

ひと回りも違う夫との退屈な日々を送る妻の前に現れた流れ者との欲望の愛憎劇。若い運転手ジノがある村の宿屋で、女主人のジョヴァンナと知り合い恋におちる。ジョヴァンナはジノと一緒にいるため、かねてから憎んでいた夫を殺害してしまう。二人は逃亡するのだが…。

世界の巨匠・ヴィスコンティのデビュー作。当局の干渉を受けながら逮捕者まで出し、オールロケを敢行したこの作品は反ファシズムの色を濃くしていたといわれ、当時ローマの公開では数日にして上映禁止となった。実際の事件にヒントを得て執筆した同名小説の映画化であり、ジャック・ニコルソン主演によるリメイク版もヒットした。

※料金について…■ 無料(アール・情報コーナー所蔵のDVD資料を映像シアターの利用紹介を兼ねて上映するものです。

■ 有料(アール・映画配給会社等からの配給を受けてフィルム上映するものです。

※入場者多数の場合、ご入場いただけない場合がございますので、予めご了承ください。

■ 主 催/お問合せ:(財)可児市文化芸術振興財団 TEL 0574-60-3311 ■ 主 管/アール・クルーズ

## うるおいコンサート



2月22日、うるおいコンサートが虹のホールにて開催されました。このコンサートは、アーラオープン後の初の受託事業の一つです。企画から開催までのすべてを、alaクルーズのプロジェクトが8月から準備をしてきました。演奏はいくつかの候補の中から名古屋芸術大学のフルートオーケストラに決定し、出演者との交渉からポスターの作製までそれぞれの担当を決めて、作業が進められました。

フルートオーケストラは同大の青木教授が中心になって年1回の定期演奏会などの活動をしております。一般的なピッコロフルートから世界に数本しかないという特殊なコントラバスフルートまで揃えて演奏している、数少ないフルートだけのオーケストラです。

当初、切符の売れ行きが鈍く心配しましたが、スタッフの懸命なPRが効を奏したのか、当日券の販売数が多く開演時には満席になっていました。alaクルーズの事業としては初の快挙といえるでしょう。入場されたお客さまもこの珍しいフルートだけのオーケストラに充分満足された様子でした。



## うるおいコンサートを終えて

「今の感想は？」とマイクを向けられたら、「大変でした。」としか答えられないかも知れません。半年間の準備期間、その中で、まず何をやるかということ。何もないところからの生みの苦しみ、十人十色で皆さんそれぞれの意見があり、その中で「フルートオーケストラ」でいこうということになり、出演者との交渉から始まりました。

名古屋芸術大学の見学や、定期演奏会に出掛けて行ったり、ポスターやチラシの制作が年末ぎりぎりまでかかってしまいました。チケットの売れゆきを見て、スタッフにもチケットを売ってもらったり、ケーブルテレビにもPRをお願いしました。そして、当日のスタッフの役割分担やら、とにかくやるのがいっぱい果たして本当にできるのか、とても不安でした。でも、スタッフの協力体制が本当にありがたいということが実感で、足りないところ一つ一つ埋めていただきました。それまでなんとなくバラバラの気持ちだったのが、当日になると自分がやるんだという気持ちが一人一人に出てきてお客さんも満員で今まで大変だったことが吹っ切れ、とてもさわやかな気分になりました。舞台の袖からお客さんがいっぱい見えて本当に嬉しかったです。スタッフの皆さん、ありがとうございました。これからもこのような企画があったら是非参加させていただきたいと思います。(H・K)

### インタビュー

青木明教授

武蔵野音大に勤めていた頃、8名のフルート教師が、フルートアンサンブルのサウンドが作れないかと思い、また学生への手本になる



ようにと今も活動中の東京フルート・アンサンブル・アカデミーを結成。特にバス、コントラバス・フルートは日本人(古田土、福島さんの2名)の発明でもありレベルは、日本が一番上。選曲、編曲は、全て自分でやっている。アーラは、音響、照明とも素晴らしい。よい場所で演奏できた。このオーケストラを指揮しての生き甲斐は、学生達を指導して、成長して行く姿を見ると、教師冥利につきる。これが最高の生き甲斐である。

演奏会は、年一度授業の一環として、行っているが、お呼びがあれば、どこへでも参じて、期待に応えたい。

## インタビュー

### 演奏者

今回は、ファースト・フルートを担当します。幼少の頃からピアノを習っていましたが、フルートは、中学生の時、その音色に魅せられて始めました。作曲家は、フルートの曲ならば誰でも好きです。将来は演奏家として自立するのが夢です。



## ////// 来場者の声 ////

20年前この大学を卒業しました。ピアノを専攻していましたが、当時このオーケストラは、ありませんでした。後輩達の演奏を気持ちよく聴くことができ、あっという間の2時間でした。

(女性 40代)

珍しいオーケストラでした。フルートだけの演奏とは、どんなものかと興味津々でしたが、幅広い音域と美しい音色に満足しました。

(女性 40代)

コンサートの開催をボランティアの人から聞き、今回で6回目です。自分で演奏はしていませんが、音楽は好きです。フルートは音色が美しいので期待してやってきました。(女性 54歳)

アーラには、よく来るのでチラシでコンサートを知りました。今日は、娘とその友達と一緒にやってきました。バス、コントラバス・フルートのことは知っていましたが、実物を目にするのは初めてです。また娘も友達とフルートを演奏していますので、両面で期待しております。

(母娘)

## Thank you . . . . .

### .....→ フロントスタッフ

#### 創作オペラ

創作オペラ「オリベ焼文様」がアーラで上演された時、裏方の仕事のお手伝いをさせていただく機会に恵まれました。長い月日をかけて練習を繰り返した出演者の方々が最高の成果を発揮できるように陰でサポートするのが裏方の仕事と理解しているつもりでしたが、思っていた以上に、細やかに神経を使い、大変な心配りがされていることが良く分かりました。幸いアーラには、「alaクルーズ」と呼ばれる方々が厳しい訓練を受けて、その都度舞台を支えてくださる様子に接し、大変心強い思いがいたしました。

今までに当たり前のように見ていた舞台でしたが、場内での飲食、写真撮影、その他ほかの人の迷惑の掛かるような行為がないかそっと扉の陰で見ているalaクルーズの方々の事を思う時、感謝の気持ちが湧いてくるなど良い経験となりました。

(M.O)

#### 可児交響楽団

ニューイヤーコンサートの折には大勢の方々にお手伝いいただき有難うございました。あんなに素晴らしいコンサートになったのは、alaクルーズの方々のお力無くしては考えられなかったとさえ感じております。

初めての自主企画のコンサートでやらなければならぬことで頭がいっぱいだった時に「お手伝いします」といってくださったことは本当にうれしく思いました。

失礼ながら最初はフロントを「お手伝いしてくださる方々ぐらいの認識しかなかったのですが打ち合わせのときいろんな質問をされ、こちら側の考えのなさに恥ずかしくなる程でした。

この方たちは一緒にステージを作ってください仲間なんだ、少しでも良いステージをフロントスタッフという立場から真剣に考えてくださっているんだという尊敬の気持ちを持ちました。

これからも私たちの力強いサポーターとしてよろしく願います。

(E.T)

## この1年を振り返って・・・

### 一年を振り返って・・・

「まず笑顔ですよ!」。「いつでも、どこでも笑顔を忘れないでね!」「はいつ、顔がひきつっていますよ。」と言われながら学んだマナー研修ですが、やはり本番になると、どうも顔がこわばっているようで・・・その訳は、「チケットは会場、日にち、時間、席番を瞬時に見てお客様に半券をお返しする様に」と、そんなに沢山いっぺんに見れるのかなあ?という不安とどうでも見なきゃ、そして半券がきれいに切れなくて、「お客様すみません」座席番号では「3番扉からお入り下さい」「4番扉からお入り下さい」ばかりで、「あれっ2番と5番は?」そんな余裕ないよね、やはり顔がこわばって当然といった感じでのスタートでした。

しかし最近少し慣れてきたようで2番、3番、4番、5番の振り分けが出来るようになってきました。でもまだまだ笑顔を維持していることができて、すぐにいつものぶすくくれた顔に戻ってしまいます。

今年度の課題は笑顔の維持かな・・・としてあとはこのポジションでもこなせる様になることです。といっても毎回参加できないので参加できる範囲で皆さんと仲良く、楽しく色々覚えていきたいです。

(M・T)



### この一年・これからの一年

可児市民待望の「豪華船・アーラ号」は出帆しました、サポートするクルー達はそれぞれの持ち場にわかれて動き始めました。私の持ち場は広報です。私たちは既にアーラが出帆する前から全員で、広報誌の準備号を大急ぎで発行するなど、まだ行き先がわからないままの手探りで、紙面作りに情熱を傾けたものです。前進するalaクルーズ会員の姿を記録し文書にまとめ、それらの情報を発信しなければなりません。

広報誌第1号・第2号の発行準備の中で情報の収集活動に、一人一人が懸命に駆け回り回ったように思いますが、果たして自分自身はその持ち場で活動が出来たのかどうかをここで振り返り、新しく始まる一年に向けて新たな気持ちで船旅を楽しみたいと思っています。

(Y・I)

### この一年・来年の抱負

「お客様に気持ちよく過ごしていただくために・・・」と思いながら、七ヶ月が過ぎようとしています。初めのは、不安と緊張で笑顔もでなかったのですが、最近は少しずつ「今は笑顔」と自分に言い聞かせることができるようになってきました。しかしながら少し慣れてくると初歩的なミスが出るようになります。また、マニュアルを読み返して「アーラ」に出かけてしまおう。

(T・M)

### お知らせ

第2回通常総会  
5月31日(土)  
13:30 ~  
場所: ミニシアター

### 編集後記

めぐる～、めぐる～季節のなかでえ～ という歌がありました。ここalaクルーズでも初めての年越しを迎えました。広報部でも冬の間は編集会議に向うにも道路の心配をしてみたり、何かと動くにおっくうな時期ですが、確実に気温は緩み、私の鼻にも春が到来。そして広報第3号の発行!バンザイ! アーラはこれからどんな風に成長していくのかな... 楽しみな一年の始まりです。今年もよろしく! (F・M)